

(指宿市西方水迫)

### 位置と環境

水迫遺跡は、後期旧石器時代、縄文時代草創期・早期・前期、弥生時代中期、中世の複合遺跡である。遺跡は、指宿市の北西部にある標高401mの清見岳から緩やかに北東へ伸びる山裾の東側の端部に位置する。眼下に鹿児島湾を見下ろす標高約126mの舌状に伸びる尾根の東南側の縁辺部で発見された。

### 調査の経緯

平成5年度に鹿児島県教育委員会が行なったサンオーシャンリゾート開発に伴う分布調査で、周知化された。平成8年には、指宿市教育委員会により広域営農団地農道整備事業に伴う確認調査を行い、縄文時代早期の遺構や遺物を確認した。

その後、平成11年度の広域農道建設予定地の発掘調査で、第I調査区において、縄文時代早期、草創期の遺構や遺物、後期旧石器時代の竪穴状遺構（指宿市教委は竪穴建物跡と呼称）、道跡、杭跡をはじめとする遺構群や遺物が発見され注目を集めた。（『水迫遺跡II』に掲載）

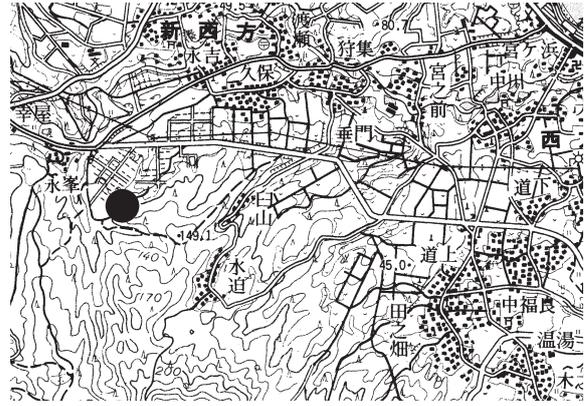
平成12年度には、後期旧石器時代の遺構群の広がりや内容確認を目的として、指宿市教育委員会は東京大学・岡山大学・九州大学・別府大学・熊本大学・鹿児島大学の教授・助教授、大学院生・学生の参加を得て発掘調査を実施した。調査の結果、第I調査区に隣接する西側拡張区で、炉跡と竪穴状遺構を新たに検出した。（『水迫遺跡I』に掲載）

平成13・14年度も引き続き、後期旧石器時代の遺構群の広がりや内容確認を目的とした確認調査を実施した。その結果、11トレンチでは竪穴状遺構が重複する形で検出された。13トレンチでは、後期旧石器時代のピットを検出した。これらの調査によって後期旧石器時代の遺構群の広がりを確定することができた。（『水迫遺跡III』に掲載）

### 地層と遺物包含層

水迫遺跡の発掘調査によって、地層は18層41細分層に分層することができた。

水迫遺跡には、下記の火山噴出物が堆積している。



第1図 水迫遺跡の位置

開聞岳噴出物の青コラ火山灰、暗紫コラ火山灰、池田カルデラの噴出物、鬼界カルデラ噴出物、桜島を起源とする薩摩火山灰、第9層中に行っている岩本火

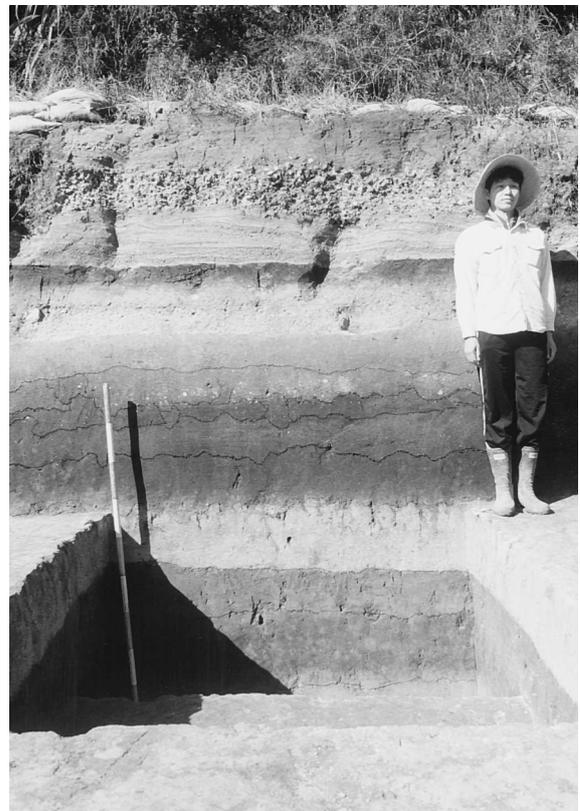


写真1 水迫遺跡の地層

山灰、始良カルデラの噴出物、宿利原火山灰、清見岳火山灰である。遺構や遺物は、これらの火山噴出物にパックされた地層から発見されている。

遺物包含層は下記のとおりである。

第1b層：中世の遺物包含層。第1g層：弥生時代中期の遺物包含層。第1j層：縄文時代中期の遺

物包含層。第5・6層：縄文時代早期の遺物包含層。第7層：縄文時代草創期の遺物包含層。第9層：後期旧石器時代ナイフ形石器文化終末期～細石刃文化初期の遺物包含層。第10層：後期旧石器時代ナイフ形石器文化後半期の遺物包含層。第12・13層：後期旧石器時代（A T下位）の遺物包含層。

### 遺構と遺物

第I調査区では、第5・6層から縄文時代早期の集石や舟形配石炉、落とし穴、柱穴等の遺構が確認された。また、岩本式土器や石皿、磨石、石鏃等の遺物が出土した。第7層からは縄文時代草創期の集石や舟形配石炉、落とし穴、柱穴等の遺構が検出された。また、岩本式土器の古段階の貝殻文系円筒形土器が出土し、「水迫式土器」と命名された。

平成14年度までの発掘・確認調査では、竪穴状遺構13基、道跡3条、炉跡2基、杭跡などの遺構群が確認されている。また、黒曜石を素材とした野岳・休場型細石刃核や細石刃、赤色頁岩や黒曜石を素材とした小形のナイフ形石器、台形石器等の遺物も出土している。これらの遺構の埋土である第9層から出土した遺物から、遺構の帰属時期は、九州におけるナイフ形石器文化終末期から細石刃文化初期に位置づけられると考えられる。

なお、第II調査区・2・12・13・14トレンチの第1g層からは、弥生時代中期の遺物が出土し、柱穴等の遺構も確認された。

### 後期旧石器時代の遺構の特徴

水迫遺跡では、竪穴状遺構などの遺構が、幅16m



第2図 調査地点の位置



写真2 水迫遺跡遠景（鹿兒島湾を望む）

前後の狭い尾根の平坦部に集中して発見されている。竪穴状遺構、道跡、炉跡は、いずれも互いに重ならないが、竪穴状遺構同士、炉跡同士のように、同じ種類の遺構は、切り合う状況がある。これは、ここで生活した人々が、集落内の施設の配置を考えた上で、空間を意識的に利用し回帰的な生活を行っていた結果とも想定しうる。つまり、竪穴状遺構、道跡、炉跡等の遺構群は、ほぼ同時期に存在していた可能性が高い。日本の集落の起源を考える上で欠くことのできない極めて重要な遺跡の一つと言える。

なお、竪穴状遺構については、その構造上遺構認定について、市教育委員会と見解が異なる意見もあり、今後も引き続き多角的・学際的な視点による検討も行う必要もあろう。

### 資料の所在

出土遺物は、指宿市考古博物館時遊館 CoCco はしむれに展示・保管されている。

### 参考文献

- 指宿市教育委員会2001「水迫遺跡Ⅰ」『指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書』34
- 指宿市教育委員会2002「水迫遺跡Ⅱ」『指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書』35
- 指宿市教育委員会2004「水迫遺跡Ⅲ」『指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書』36

(鎌田洋昭)



写真3 水迫式土器（土器のくちの部分に貝殻で文様を付けている。）



写真4 後期旧石器時代の集落跡（第1調査区全景）



写真5 1, 2号竪穴建物跡



写真6 3～7号竪穴建物跡と道跡（白線部分）



写真7 後期旧石器時代の遺物（細石刃）



写真8 後期旧石器時代の遺物（ナイフ形石器・台形石器）